

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、専門教育の充実、共通教科と専門教科のバランスに配慮した教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的行動の促進を図る。</p>	<p>①生徒の主体的・協働的学びを促進する組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を生徒が主体的に取り組めるような環境づくりを行い、支援する。</p>	<p>①校内の研究授業を活性化するとともに、他校種の授業見学を積極的に行うなどし、生徒の主体的・協働的学びを促進する取組を実施する。</p> <p>②学校行事や生徒会活動が主体的かつ積極的にできるような支援祭・文化祭等の行事に対する達成感や満足度が上がるような環境づくりと支援体制を確立する。</p>	<p>①生徒による授業評価の質問項目「3 教材が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である」における「4 とても当てはまる」の回答率が4割以上となったか。</p> <p>②学校行事や生徒会活動に生徒が主体的かつ積極的に取り組めたか。また、体育祭・文化祭等の満足度が80%以上であったか。</p>					
2 生徒指導・支援	<p>①基本的生活習慣の確立に向けたきめ細かな生活指導に取り組むとともに、個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を確立する。</p> <p>②部活動の活性化を通して、生徒の達成感・連帯感・責任感を涵養する。</p>	<p>①身だしなみ指導を充実させ、効果的な指導になるようにする。</p> <p>①学校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止に取り組む。</p> <p>②部活動加入率の向上と定着を目指し、生徒の安全と健康を守り、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①事後指導を工夫するなどして身だしなみ指導を充実させる。各学期の初めに学年集会を開催し、服装・頭髪指導をする。制服着用週間を設ける。</p> <p>①定期的なアンケートを実施し組織的にいじめの認知に努め、その解消を図る。</p> <p>②ビデオを活用した部活動紹介等を行うとともに、夏には中学生対象の部活動見学会・体験会を行う。ホームページにおいて部活動のページを充実させる。また、本校の「部活動に係る活動方針」を策定し、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①新しい試み(各学期の初めの学年集会・制服着用週間)が効果をあげることができたか。</p> <p>①いじめの認知件数とそれらが解消できたか。</p> <p>②部活動の加入率を72%以上にする。また、生徒の健康と安全を守るため、休養日として、平日52日、土日52日以上とれたか。</p>					
3 進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導・支援の充実を図る。</p> <p>②これからの時代を生きて行く上で必要な資質・能力を育成するためのキャリア教育を推進する。</p>	<p>①地域の企業との連携によるインターンシップやコンソーシアムを充実させる。</p> <p>②キャリア教育実践プログラムを実施していく。</p>	<p>①県西部地区インターンシップ連携推進連絡協議会や地域の企業とも連携し、参加人数の増加を図る。また、保護者の勤務先等にも連携を呼びかける。</p> <p>②生徒の進路希望に即したきめ細かなガイダンスや説明会を引き続き実施する。また、企業や上級学校と連携し、卒業生を招い</p>	<p>①インターンシップの参加者は各科ごとに5人程度、合計20名以上を達成できたか。</p> <p>②進路懇談会やガイダンス等で生徒の進路に対する意識の向上を90%以上図ることができたか。</p>					

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②生徒自らを高める活動への参加を推進する。	た進路懇談会や校外見学実習を工業教育推進グループとも連携しながら実施する。 ②校外見学実習を実施し、見識を広める。資格試験への参加を推進し、挑戦する気構えを育成する。	②校外見学実習の実施状況や各種資格試験等への参加実績。					
4 地域等との協働	①地域産業・地域社会との連携・協働による教育活動の充実に取り組む。 ②地域や中学生に工業高校の魅力・特色を発信するため広報活動の充実を図る。	①社会とのかかわりを自覚し、自己肯定感を育むことにつながるように地域と連携した教育活動を推進する。 ②生徒が心身共に健康に育つように、保護者と連携して行事等に関わり、教育活動を推進する。 ③広報活動を積極的に行い、学校の特徴や最新の情報を発信して、本校の教育活動を広く周知し、志願者数を拡大させる。	①工業高校の特性を生かし、地域と連携したものづくり活動を実施する。また、「地域学校協働活動推進事業」を推進し、新たな活動についても検討する。 ②保護者と連携した広報活動・環境整備・生徒指導・社会教育・学校行事等を円滑に実施する。また、情報交換や交流活動の機会を生かす。 ③引続きリニューアルしたホームページを活用し、情報発信をより充実させる。また、学校説明会においては、ICTの活用や生徒の参加を進め、外部と連携した活動を企画して参加するなどし、本校の特色をより効果的にPRできるよう工夫する。	①地域と連携したものづくり活動への参加生徒数の増加や新たな取組ができたか。また地域からの評価は良好か。 ②連携した活動に参加した保護者の評価は良好か。 ③本校への興味・関心を測るホームページへのアクセス数が増加したか。学校説明会等への来場者や、近隣中学校などの評価は良好か。					
5 学校管理 学校運営	①生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。 ②研修による意識啓発、業務の共有・協働・効率化を進め不祥事を未然に防止する。	①生徒が安心して学校生活を送れるように防災体制の整備をする。とともに生徒・職員が高い防災意識を育てるよう防災訓練等の充実をはかる。 ②事故防止会議を定期的に開催し、重要ポイントの確認を繰り返すなどして職員の事故防止意識の向上に努める。	①防災倉庫の整理や避難所としての対応を考える。また火災や津波の避難訓練をはじめ、地域との防災訓練等を行うとともに、「避難所初動対応マニュアル」を作成し、地域とともに防災について考えていく。 ②日頃から同僚性の醸成に努め、毎月1回事故防止会議を開催するとともに、外部人材を活用した不祥事防止研修を実施する。	①防災訓練等により高い防災意識が維持できたか。地域からの評価は良好か。 ②年度末に職員から聞き取りを行うなどして、職員の事故・不祥事防止意識がより高まったかどうか検証する。					